# はじめに

本書第１部は、信仰探求上のある一定の点へ達した境涯に立って、それまでの経過を反省した性格のものであるから。それに対して第２部はそうではなく、基本的には先のある一定の点からさらに先へと進みつつある心境の中にあって記したものである。したがって、それら双方はかなり資質の異なったものが組み合わされていると判断している。

だが異なった資質とはいえまったくの別物なのではない。いわば前後という関係にあって相互に深い繋がりを有している。もっともその事情が本書での表現の字面の上で見られるわけではない。しかし、第１部に記した如き内容の事情があったればこそ、第２部に記したような内実へ達した点において、第１部と極めて深い関係を有する。

天地人 ― 世からイエス固着へ ―

# 目　次

はじめに …… i

## 第 1 部　世にありて

第 1 章　孤独と実践 …… 3

第 2 章　世に属さぬ者とは …… 23

第 3 章　救われた集団 …… 41

第 4 章　全方位展開 …… 71

第 5 章　狭き門 …… 103

## 第 2 部　「天地」へ向けて

第 1 章　十字架を負う意味 …… 125

第 2 章　世と霊 …… 149

第 3 章　良心と終末 …… 165

あとがき …… 195